

1 目的

農業経営者育成を推進するために視察研修及び講習会等を行う。併せて、小中学生を対象に体験学習等を実施し、生徒募集を行うとともに農業への興味や関心を持ってもらう。

1年次は地域農業研修会や視察研修、2年次は農業インターンシップ、3年次は就農志向者研修や営農の門出を励ます会を実施する。

耕種部門は、植物の栽培管理や経営の基礎を学習するとともに、生産物の6次化やGAP教育を行う。畜産部門では、家畜の飼育管理を学習し、畜産共進会や和牛甲子園への出品に向けて肉質向上や優良生産者育成に努める。併せて、全学科を対象にスマート農業についての学び、販売実習や出前授業を通して学習を深めた。

2 実施状況

今年度は新型コロナウイルス感染対策緩和により、諸行事を通常(コロナ前)に戻す形で実施した。今年度の取組を紹介する。

(1) 視察研修(1年生)の実施

本県の農業の実態や農政の現状について1年次より理解を深め、農業経営者育成のために実施している。自営者養成学科1年(義務入寮生)を対象に、今年度は鹿屋市近隣の先進農家等の視察を行った。

本校は近年、非農家出身の生徒も農業の学習を通して農業に興味関心を持ち、農業大学校への進学や農業法人へ就職する者が増加している。先進的な事業を展開している農家等の視察を機に、さらに農業従事への意識を高め進路活動に向けて具体的に取り組む良い機会となった。



(2) 農業インターンシップ(2年生)の実施

昨年度より泊を伴わない4日間の農業体験に変更し、今年度も鹿屋市を中心に農家や農業法人・関連企業の協力のもと実施した。慣れない環境で初めて行う作業もあり生徒達は戸惑うこともあったが無事実施することができた。農家の方から「短い期間だったがよく頑張っていた」など高い評価をいただいた。



(3) 営農の門出を励ます会(3年生)の実施

大学農学部、農業大学校、農業法人、農業関連企業への進路決定者を対象に実施した。各学科代表が抱負発表を行い、最後は本校製造の豚味噌缶詰で「缶杯(かんぱい)」をした。

(4) 中学生体験入学の実施

数年ぶりに宿泊(1泊2日)体験入学を実施した。農業体験と寮生活体験を通して本校並びに農業理解を深める機会とした。県外や中学1年生の参加もあった。

3 今後の課題、取組

今年度の農業関連への進路決定者は22名であった。非農家出身の生徒が増えている中、今後も授業や実習、就農促進対策事業や後継者育成対策事業を通して農業に対する理解を深め、農業関連産業への進路決定に繋げていきたい。また、小中学生や在校生に農業の魅力を感じ取ってもらえる学校づくりに向けて、諸行事の改善や充実を図りながら計画的に取り組んでいきたい。